

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【公開番号】特開2013-226728(P2013-226728A)

【公開日】平成25年11月7日(2013.11.7)

【年通号数】公開・登録公報2013-061

【出願番号】特願2012-100780(P2012-100780)

【国際特許分類】

B 4 1 J 2/175 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 3/04 1 0 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月17日(2015.4.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インクを噴射する液体噴射ヘッドと、
前記液体噴射ヘッドを収容する筐体とは別体に構成されて、前記インクを貯留するインクタンクと、
前記液体噴射ヘッドと前記インクタンクとを連通する液体チューブと、を有し、
前記筐体の側面に前記インクタンクの少なくともいずれか一方には、
前記筐体の側面に前記インクタンクを固定する帯状部材と、を備えたことを特徴とする
記録装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の記録装置であって、
前記帯状部材は、マジックテープ（登録商標）であることを特徴とする記録装置。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の記録装置であって、
前記帯状部材は、両面が粘着性を有する両面テープであることを特徴とする記録装置。

【請求項 4】

インクを噴射する液体噴射ヘッドと、
前記液体噴射ヘッドを収容する筐体とは別体に構成されて、係合部を有し、前記インクを貯留するインクタンクと、
前記液体噴射ヘッドと前記インクタンクとを連通する液体チューブと、
前記筐体の側面に備えられて、前記係合部と係合可能な被係合部と、を備え、
前記係合部と前記被係合部のうちのいずれか一方は、突出する突出部を有し、前記インクタンクは、前記係合部と前記被係合部とによって、前記側面に着脱可能に備えられるこ
とを特徴とする記録装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の記録装置であって、
前記突出部は、鉛直方向に対して傾斜して突出することを特徴とする記録装置。

【請求項 6】

請求項 4 に記載の記録装置であって、
前記突出部は、水平方向に突出する第 1 の突出部と、前記第 1 の突出部から鉛直方向に

突出する第 2 の突出部とを有することを特徴とする記録装置。

【請求項 7】

請求項 4 に記載の記録装置であって、
前記突出部は、湾曲部を有することを特徴とする記録装置。

【請求項 8】

請求項 4 に記載の記録装置であって、
前記突出部は、先端に球状部を有することを特徴とする記録装置。

【請求項 9】

請求項 1 から請求項 8 のいずれか一項に記載の記録装置であって、
前記インクタンクは、インクを貯留する貯留容器と前記貯留容器を収容する収容ケース
とを備えたことを特徴とする記録装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

〔適用例 1〕インクを噴射する液体噴射ヘッドと、前記液体噴射ヘッドを収容する筐体
とは別体に構成されて、係合部を有し、前記インクを貯留するインクタンクと、前記液体
噴射ヘッドと前記インクタンクとを連通する液体チューブと、を有し、前記筐体の側面に
前記インクタンクの少なくともいずれか一方には、前記筐体の側面に前記インクタンクを
固定する帯状部材と、を備えたことを特徴とする

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本適用例によれば、記録装置の製造コストの増加を抑制できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

〔適用例 2〕前記帯状部材は、マジックテープ（登録商標）であることを特徴とする記
録装置。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本適用例によれば、記録装置の製造コストの増加を抑制できる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

〔適用例 3〕前記帯状部材は、両面が粘着性を有する両面テープであることを特徴とする上記記録装置。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

本適用例によれば、記録装置の製造コストの増加を抑制できる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

〔適用例 4〕インクを噴射する液体噴射ヘッドと、前記液体噴射ヘッドを収容する筐体とは別体に構成されて、係合部を有し、前記インクを貯留するインクタンクと、前記液体噴射ヘッドと前記インクタンクとを連通する液体チューブと、前記筐体の側面に備えられて、前記係合部と係合可能な被係合部と、を備え、前記係合部と前記被係合部のうちのいずれか一方は、突出する突出部を有し、前記インクタンクは、前記係合部と前記被係合部とによって、前記側面に着脱可能に備えられることを特徴とする記録装置。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本適用例によれば、係合部と被係合部のうちのいずれか一方は、突出する突出部を有し、インクタンクは、係合部と被係合部とによって、側面に着脱可能に備えられる。これにより、インクタンクを筐体に装着し、筐体とインクタンクとを一体化した状態で、持ち運ぶことができる。従って、筐体とインクタンクとを、使用者が持ち運ぶときの作業が容易となる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

〔適用例 5〕前記突出部は、鉛直方向に対して傾斜して突出することを特徴とする記録装置。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

〔適用例 6〕前記突出部は、水平方向に突出する第 1 の突出部と、前記第 1 の突出部から鉛直方向に突出する第 2 の突出部とを有することを特徴とする記録装置。

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

〔適用例 7〕前記突出部は、湾曲部を有することを特徴とする記録装置。

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

本適用例によれば、係合部と被係合部のうちのいずれか一方が、係合部と被係合部のうちの他方の突出部における湾曲部に沿って移動できるので、使用者がインクタンクを筐体に容易に装着したり、インクタンクを筐体から容易に取り外したりすることができる。

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 0 】

〔適用例 8〕前記突出部は、先端に球状部を有することを特徴とする記録装置。

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

本適用例によれば、本適用例によれば、筐体に対するインクタンクの姿勢が変化しても、係合部と被係合部との係合状態を維持できる。

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

〔適用例 9〕前記インクタンクは、インクを貯留する貯留容器と前記貯留容器を収容する収容ケースとを備えたことを特徴とする記録装置。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 3 】

本適用例によれば、収容ケースによって剛性を高めることができるので、インクタンクが自重によって変形することを抑制できる。また、収容ケースによって貯留容器を覆うことができるので、貯留容器が外力により損傷することを抑制できる。